

# 本当に怖い火災への備えと対処

- ・防火のポイント
- ・消火器の種類と使い方
- ・延焼シミュレーション
- ・初期消火のコツ

# 防火10のポイント -1

①天ぷらを揚げ  
るときは、その  
場を離れない



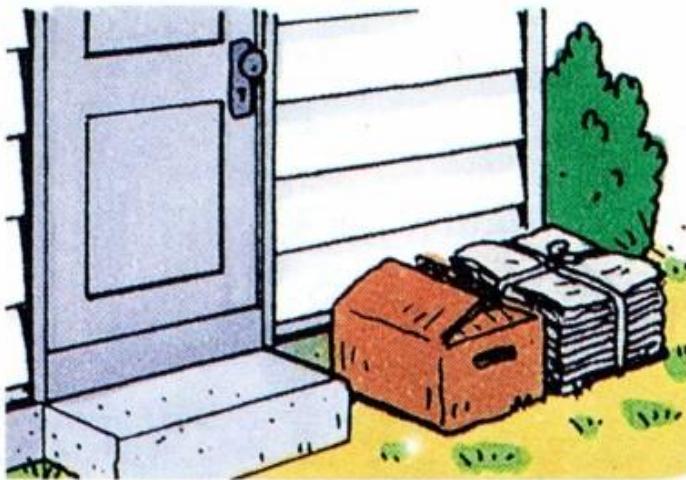
②寝たばこ・  
たばこの投げ  
捨ては厳禁



③風の強いときに、  
たき火をしない

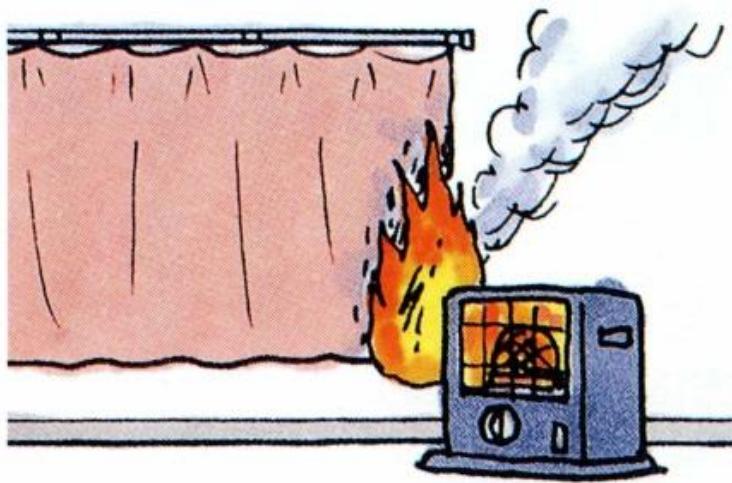


④家のまわりに  
燃えやすい物を  
置かない

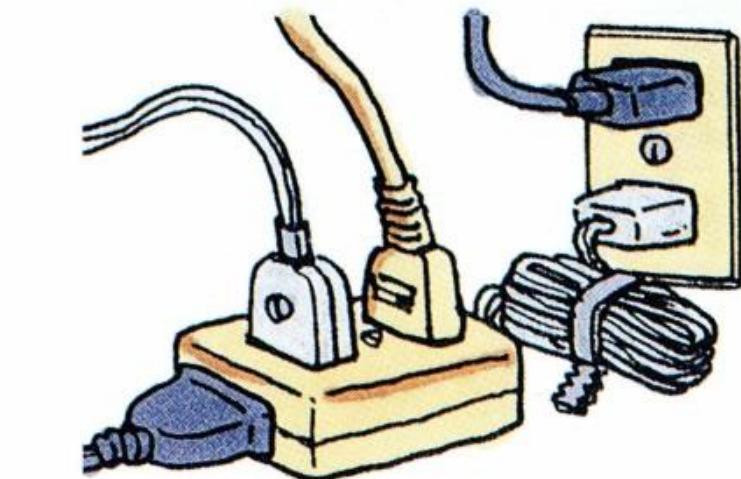


## 防火10のポイント -2

⑤子供をマッチやライターで遊ばせない

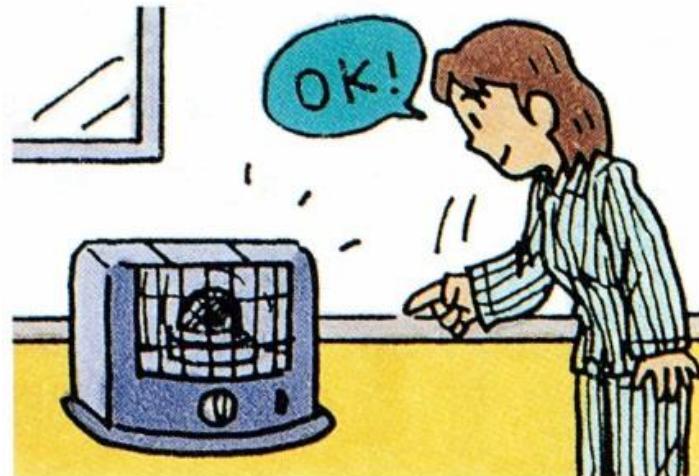


⑦ストーブには燃えやすい物を近づけない



⑥電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない

⑧寝る前に必ず火元を確かめる

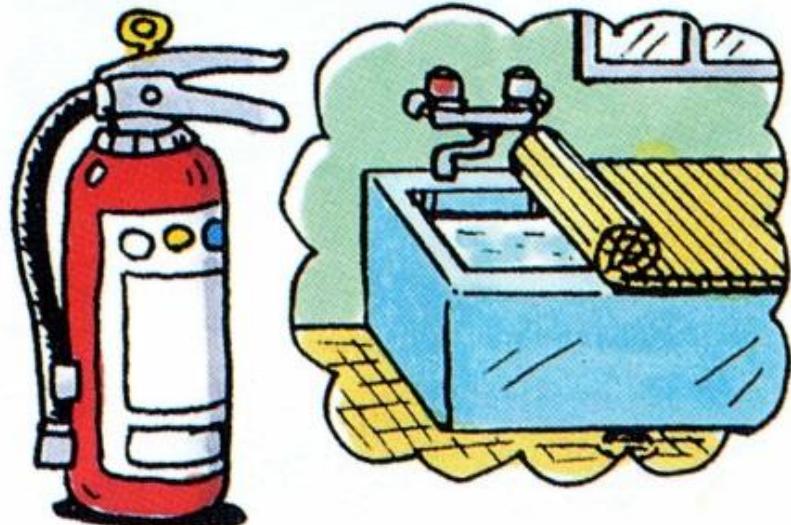


# 防火10のポイント -3

## ⑨高齢者の部屋は1階に



## ⑩消火の備えを万全に



### 番外 「通電火災」に注意

例えば「地震」→「電気ストーブ倒れる」→「停電」→復旧→「通電」で火災発生！

- 対策:
- ・避難時は電気のブレーカーを落とす
  - ・「感震ブレーカー」の設置  
(簡易型で、錘が落下しブレーカーを切る商品もある)
  - ・特定のコンセントのみ電気を止める「感震コンセント」もある

# ご家庭に消火器を

- 日頃から火災を起こさないよう注意！！



しかし！



- 万一の火災発生時の備えに
- 皆さんのご家庭にも消火器を！！

# 1. 消火器の種類

粉末消火器



強化液消火器



# 粉末消火器



一瞬で消火できるが、浸透性がないため、燃焼物(木材など)によつては再燃の恐れがある

強化液消火器に比して、放射時間・放射距離が短い。

屋内で使用すると薬剤が充満し、視界が悪くなる。

- 粉末消火器で火勢を抑え

# 強化液消火器

一瞬の消火には不向きだが、水系薬剤のため浸透性があり、木材などの消火に有効。冷却効果も高い。



粉末消火器に比して、放射時間・放射距離が長い。

水と作用して発熱する危険物には使用できない。

○強化液消火器で深部も完全に消火

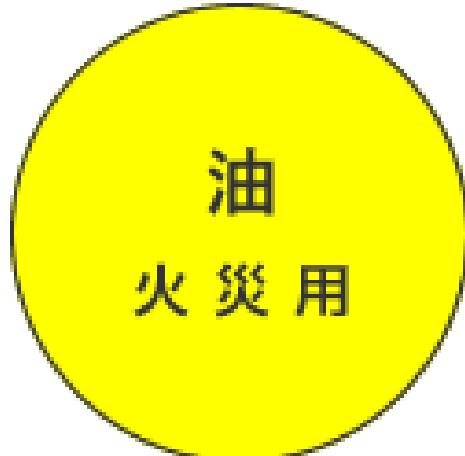
# 消火器が適応できる火災

消火器には適応する火災を示すラベルが付いている。なお、「普通火災」はA火災、「油火災」はB火災、「電気火災はC火災」と呼ばれることがある。

家庭に最初に備える場合、一般家庭で起り得る火災の多くに対応できるABC粉末消火器を選ぶと良い



木材、紙、繊維などが  
燃える火災



石油類その他の可  
燃性液体、油脂類な  
どが燃える火災



電気設備・電気器具  
などの火災

# 消火器にも寿命がある

せっかく消火器を設置しても、古すぎて使用できなければ意味がない。

消火器の使用期限は、取扱い説明書・消火器本体に貼られているシールに表示。使用期限の過ぎている消火器は交換を。

使用期限等の表示例



使用方法

# 住宅用消火器



より小型・軽量(ホースが付いていないタイプが多い。)で使い方も簡単なのが住宅用消火器。

ベージュやグリーンなど様々な色のものもあり、適用できる火災が絵でわかりやすく表示されている。

# 住宅用消火器

「適応できる火災」の表示例



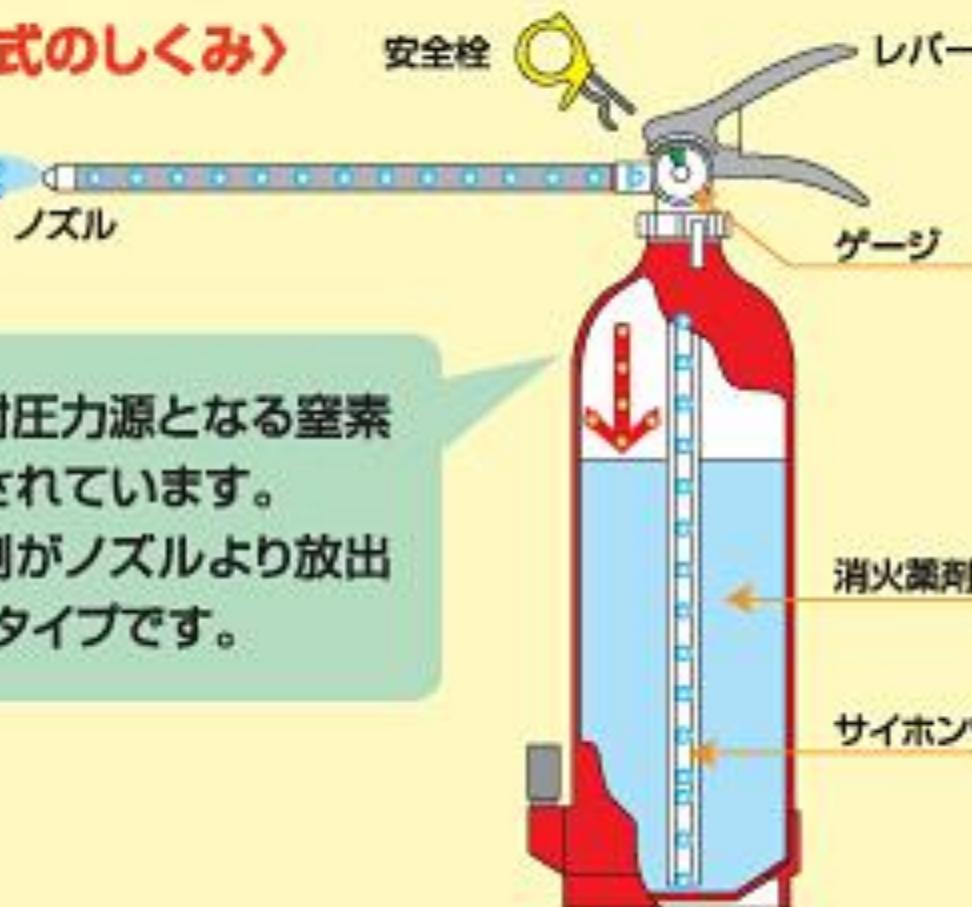
「使用期限」の表示例



# 消火薬剤の放出には2つの方式があります。



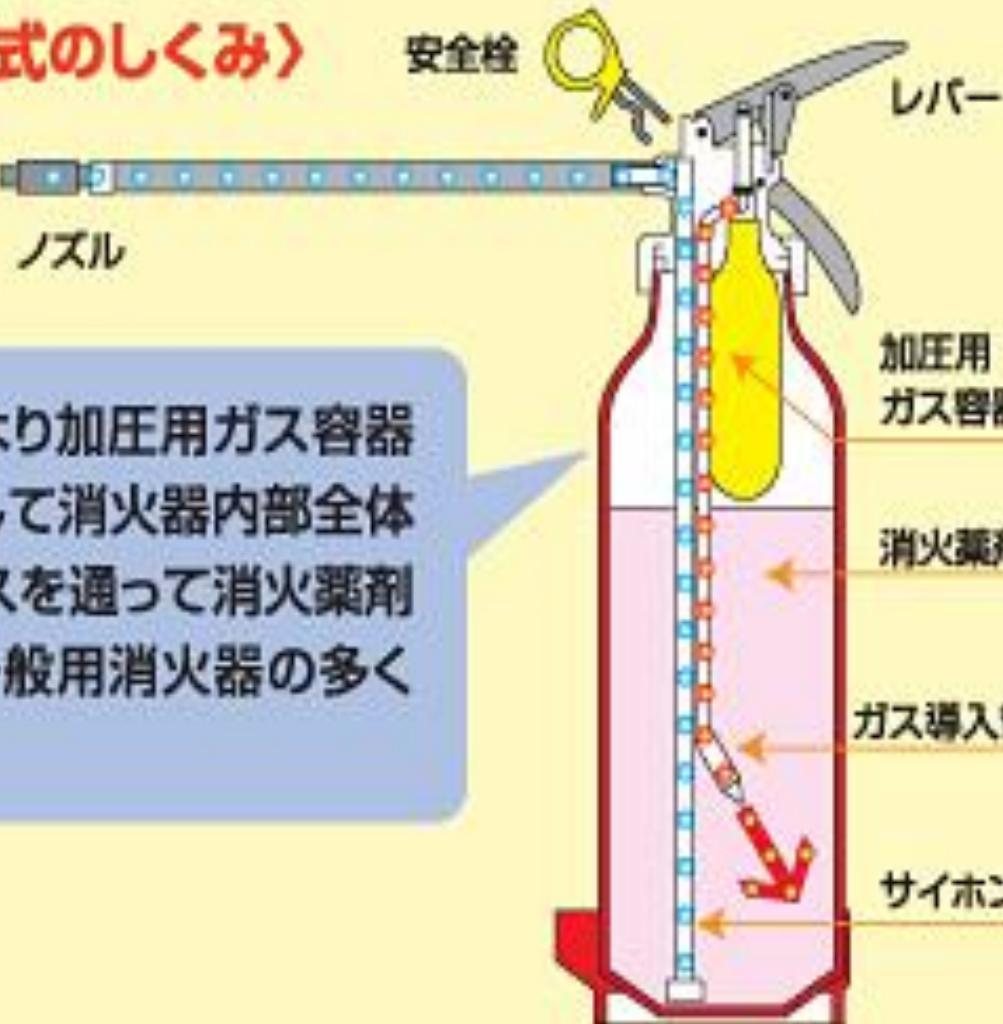
## 〈蓄圧式のしくみ〉



本体容器内には消火薬剤と放射圧力源となる窒素ガス（または圧縮空気）が蓄圧されています。レバーの操作によって消火薬剤がノズルより放出されます。住宅用消火器はこのタイプです。



## 〈加圧式のしくみ〉



消火器のレバーを握ることにより加圧用ガス容器内のガスがガス導入管を経由して消火器内部全体に広がり、サイホン管からホースを通って消火薬剤がノズルより放出されます。一般用消火器の多くはこのタイプです。

### 3 消火器の日常の点検方法





○使用期限は、過ぎていませんか？



○安全ピンは付いていますか？



○キャップはゆるんでいませんか？

○ホースに詰まりやヒビ割れ  
はありませんか？



圧力ゲージのついているものは、圧力を示す針が規定値内(緑色の範囲)にありますか？



○容器にサビや変形などはありませんか？

異常を発見した場合は絶対に使用せず、購入したお店または消防器メーカーなどに問い合わせを！

## 4 消火器の設置場所

- ・ 誰もが見やすく、取り出しやすい場所に
  - 人目につきやすい玄関
  - 階段近くの邪魔にならないところや踊り場
  - 居間や寝室の目につきやすいところ
  - 台所の入口など台所に近いところ

※風呂場や洗面所など湿気の多い所は避ける

# 5 消火器の使い方

いざという時のために消火器  
の正しい使い方を身につけて



消火器を障害物にぶつけたりしないよう注意しながら、  
火災発生場所近くの消火に安全な場所まで運ぶ

概ね7~8m手前を目安

- ①黄色の安全ピンを引き抜く



②ホースを外し、ホースの先端を持って火元に向け



ホースの途中を持つと、放射の圧力などからねらいが定まらず、的確に放射できない恐れ

### ③レバーを強く握って放射

消火器が重い場合、消火器を置いたままレバーを握って放射する方法も



火の根源をねらい、手前からほうきで掃くように薬剤を放射

自分の身を守りつつ効果的に放射するため、**風上から放射。**  
室内で放射する場合は、**出入り口を背にして逃げ道を確保**

# 天ぷら火災のときはさらに離れて



天ぷら油火災の消火では、あまり近づきすぎると放射薬剤の勢いで油が飛び散り、火傷などの危険がある。

4~5メートル程度離れたところから放射、徐々に火元に近づくように。

住宅用消火器やエアゾール式簡易消火具も少し離れたところからの放射で十分に効果。

# 再燃に注意



粉末消火器は冷却効果が少ないため再燃する恐れがある。  
消火薬剤をすべて放射し、コンロを消した後、蓋などをして空気の遮断を続ける。

# 消火器の放射時間

- 放射時間は、消火器の種類や薬剤の量により異なる。

粉末消火器……15秒程度

強化液消火器……30～70秒程度

放射時間や放射距離は本体に必ず表示してあるので、日頃から確認を。

# 消火器での初期消火はどのくらいまで可能？

一般に消火器での初期消火が可能なのは、  
**天井に火がまわるまで**  
と言われている。天井に火が燃え移った場合には  
**速やかに逃げること。**  
逃げる際は、ドアを閉めて、  
周りの人に**火災発生を大声で知らせる。**  
一人での消火活動でなく皆で協力することも大切。

# ご家庭に消火器の備えを！

日頃から火災を起こさないよう注意する  
ことが大事

日頃から火災を起こさないよう注意す  
ることが大事ですが、もし火災に見舞  
われた場合のために、皆さんのご家  
庭にも消火器を備えましょう。

日頃から火災を起こさないよう注意す  
ることが大事ですが、もし火災に見舞  
われた場合のために、皆さんのご家  
庭にも消火器を備えましょう。



# 本大久保4丁目地区 延焼シミュレーション

N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 0時間 00分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 0時間 15分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 0時間 30分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 0時間 45分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 1時間 00分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 1時間 15分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 1時間 30分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 1時間 45分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 2時間 00分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 2時間 15分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 2時間 30分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 2時間 45分



N  
4  
十

風向 北西 風速 10m/s 出火から 3時間 00分



# 火元別初期消火のコツ -1

## 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。  
消火器がなければ、濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。



## 石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっているようなら毛布などでおおい、その上から水をかけて消火を。



# 火元別初期消火のコツ -2

## 衣類

着衣に火がついたら転げ回って消すのも方法。髪の毛の場合なら、衣類（化繊は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。



## 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。



# 火元別初期消火のコツ -3

## 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できればブレーカーも切る）消火を。



## カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃えひろがったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

